



デジタル化によって「こんなことができるんだ!」と閃くヒントを探るべく、福井商工会議所職員がデジタル技術の活用を進める企業や施設を訪問し、レポートとして報告中! その悩み、デジタル技術で解決できるかも!?

# こち デジタル活用 ビジネス支援センター



(株)松浦機械製作所  
DX推進室長 松浦 悠人 さん

工作機械メーカーである(株)松浦機械製作所は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により主要取引先である海外企業との商談や展示会等への出張が困難になる等、従来の営業手法が通用しなくなりました。そこで、事業変革のためオンラインプロモーション活動として動画でのPRに注力しています。今回は、同社DX推進室の松浦悠人室長にお話を伺いました。

## 営業マンの声から 動画を販促ツールに!

コロナ禍によって、従来の営業活動ができません。当社は海外顧客との取引が多く、これまでのように自社工場まで直接足を運んでもらう手段が取れなくなりました。そんな折、海外子会社からオンラインでのセールスプロモーションツールが必要という要望を受け、国内外に向けた動画作成を行うことを決めました。当社では2021年度は顧客から「選ばれる理由にこだわる」をスローガンに掲げ、事業変革の必要性を社内でも強調していました。オンラインでの販売促進活動を進めるべ

く、営業マンからどのような動画があると良いか意見を集めて、昨年10月頃から社長インタビューや工場見学、製品紹介等の内容で制作、これまでに50本以上の動画を「YouTube」で公開しました。最初は機材も何を準備すべきか分からずとにかく手探り状態で、カメラワークや集音などの撮影方法や自社技術・情報をどこまで映像として流せるのかなどを精査しながらノウハウを蓄積しました。そして、現在では、昨年9月から立ち上げたDX推進室を中心に、社内の動画制作能力の強化を図っています。



同社の松浦勝俊社長は英語でも企業理念やメッセージを動画で配信。これにより海外の新規顧客からの信頼を得ることができました。

## 動画がポストコロナにおける ツールとして効果を発揮

顧客への取材動画を営業ツールとして活用する販促活動や、リクルート用に若手社員の1日の業務を紹介する採用活動、組立・メンテナンス作業員向けのマニュアルの映像化等、動画は多方面に応用しています。「YouTube」で何時でも動画が視聴できるようになっていますが、当社で重視すべきことは視聴回数ではなく、目的やターゲットを明確にし、いかにシンプルに見る人へ伝えるかだと思っています。

また、一度動画を制作すると決めたからには、中途半端にせず、継続してやることも大事なことだと感じました。我々も最初から動画に関して精通してはいたわけではないので、何度も撮り直しを行い、編集に時間がかかっていました。しかし、当社営業マンから「営業の決め手として役に立っている」と好評で、「次はこのような動画を作ってほしい」とテーマを提供してもらえるようにもなりました。ほかにも動画をきっかけに顧客との会話がよりスムーズ

に進むようになり、相互のコミュニケーションが取りやすくなったのではないかと思います。ちなみに、動画撮影に使用している機材は数千〜数万円程度のもので十分だと実感しました。編集用アプリについてもいきなりハイスペックなものではなく、自分たちでじっくり試しながら作業がしやすいアプリを選ぶと良いと思います。

## DX推進室から 動画制作スキルを発信

DX推進室の役割は社内業務の効率化や、デジタルツールの活用による自社技術への付加価値を生み出すことですが、地道に培ってきた動画制作のノウハウを社内へ伝えていくことも業務としています。メンバーは2名ですが、各部門・グループ会社の実務担当者へ教育を行い、品質やサービスだけでなく、デジタル技術の活用レベルについてもばらつきのないよう水準を高めています。こうした成果もあって、令和3年7月には経済産業省の「DX認定」(DX推進に向けた準備のため、企業ビジョンの策定や戦略・体制の整備が

進んでいる事業所を国が認定する制度)を取得することができました。引き続き動画をはじめとしたデジタル化を進めるため、新規採用も進め、AI(人工知能)技術者の育成にも注力したいです。今後、強化したいことは「社内業務の効率化」。社内システムの刷新も含め、製造から事務まで一貫して情報連携できる体制を作ってまいります。そのためには、社内業務を一つひとつ見直していきたいと思



若手社員がカメラを持って工場内を撮影。現場の作業員からインタビュー形式などで製品の魅力を伝えています。



松浦機械製作所さんの動画や使用している機材について紹介しています!

## こち デジ 番外編 名刺情報を 全員で共有

福井商工会議所が活用しているデジタルツールやデジタル活用ビジネス支援センターの取組みについて紹介します。

福井商工会議所では、名刺管理サービス「Sansan(サンサン)」を導入しています。このサンサンは交換した名刺をスキャンしてデータ化し、その情報を全職員間で共有す



受け取った名刺をスキャナーに差し込んで、スキャンボタンを押すだけ。

ることができるシステムで、名刺に記載してある情報(名前や部署・役職、メールアドレス等)をすべて自動的に登録してくれます(手書きの情報も読み取ってくれます!)。当所では会員企業の台帳を管理していますが、各企業に所属する社員の個別情報(部署異動、昇進等)まで整理できるシステムを持っていませんでした。パーソナルデータを活用して会員企業とのコミュニケーションの導入を決めました。名刺情報の一元化により、職員との過去の接触履歴が分かったり、以前のセミナー参加実績などからターゲットを絞った案内・集客が可能になったりと、事前の情報収集に効果を発揮しています。また、メールマガジン配信もサンサンから行っています。

皆様、当所職員と面会の際はぜひ名刺交換させてください。

お問合せ先  
福井商工会議所 まちづくり・産業振興課  
0776(33)8252